

家畜衛生だより

- 監視伝染病発生状況
- 県内の家畜疾病発生状況
- 韓国における口蹄疫の発生について
- 国内で馬インフルエンザが発生
- 野生イノシシの侵入防止対策について
- 豚熱経口ワクチン野外散布及び捕獲イノシシの豚熱等検査の実施について
- 畜産研究センター・養鶏研究所の試験研究について
- 電源立地地域対策交付金を活用した機器整備
- がんばる愛媛の畜産
- 第 40 回四国連合乳牛共進会でグランドチャンピオン賞受賞！
- 新入職員紹介

監視伝染病発生状況

○家畜伝染病発生状況 (令和 6 年 12 月～令和 7 年 3 月)

※農林水産省集計及び中四国各県からの報告による。

畜種	病名	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数
牛	ヨーネ病	岡山県	3	1	1

○届出伝染病発生状況 (令和 6 年 12 月未掲載分～令和 7 年 3 月)

※農林水産省集計及び中四国各県からの報告による。

畜種	病名	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数	発生場所	発生月	戸数	頭羽群数
牛	牛伝染性リンパ腫	鳥取県	12～3	7	11	島根県	12, 1, 3	3	5
		岡山県	12～3	5	18	山口県	12～3	8	9
		広島県	12, 2, 3	1	6	徳島県	12～3	2	10
		香川県	12～3	7	12				
豚	豚丹毒	広島県	12, 2, 3	2	6	高知県	12, 2, 3	5	5
		香川県	12～3	3	12	徳島県	1	1	2
		愛媛県	1	1	1	島根県	2, 3	1	3
鶏	鶏伝染性気管支炎	徳島県	1, 2	2	8				
	伝染性ファブリキウス嚢病	鳥取県	3	2	26				
蜜蜂	アカリダニ症	香川県	12	1	1	山口県	12	1	2
		岡山県	1	1	1				
犬	レプトスピラ症	愛媛県	1	1	1				

県内の家畜疾病発生情報

[牛マイコプラズマ肺炎]

(令和 6 年 12 月末掲載分～令和 7 年 4 月)

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	12 月	肉用牛	4	1	1	神経症状、発熱
東予	1 月	肉用牛	17	1	1	発熱、発咳、鼻汁
[対策] ○畜舎消毒の徹底 ○有効薬剤の投与 ○発症牛の早期隔離 ○寒冷期の保温対策 ○畜舎の換気 ○ストレスの低減						
[参考事項] マイコプラズマは、感染力が強く、農場内に常在する傾向があります。						

[牛 RS ウイルス病]

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	2 月	乳用牛	42～79	1	5	咳、呼吸数増加、発熱
[対策] ○飼養管理の改善 ○早期発見・早期治療 ○ワクチン接種						

[牛パストツレラ（マンヘミア）症]

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	2 月	乳用牛	1	1	1	発熱、起立不能
[対策] ○畜舎消毒の徹底 ○有効薬剤の投与 ○ワクチン接種 ○初乳の早期給与 ○飼養環境の改善						
[参考事項] ウイルス、マイコプラズマ、細菌と混合感染し重篤化することがあります。						

[牛クロストリジウム・パーフリンゲンス感染症]

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	3 月	肉用牛	2	1	1	突然死
[対策] ○飼養管理の改善 ○畜舎消毒の徹底 ○ストレスの低減						

[牛コロナウイルス病]

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
南予	4 月	乳用牛	27～38	1	5	水様性下痢
[対策] ○畜舎消毒の徹底 ○ワクチン接種 ○ストレスの低減						

[豚レンサ球菌症]

発生管内	発生月	畜種	月齢	戸数	頭数	主な症状
東予	3 月	豚	30～60	1	4	神経症状
[対策] ○有効薬剤の投与 ○ストレスの低減 ○畜舎消毒の徹底 ○ワクチン接種						

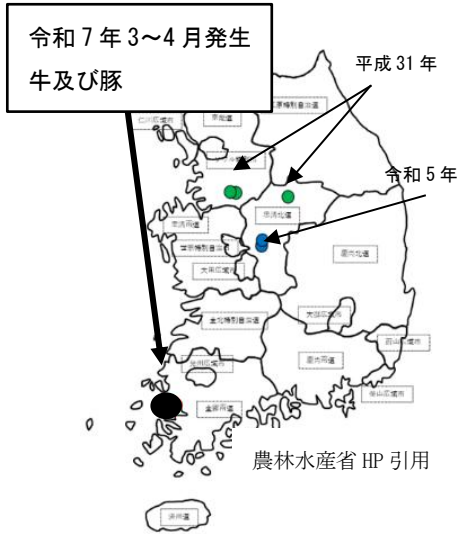
[鳥パストツレラ症]

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
東予	1 月	採卵鶏	110	1	15	死亡羽数増加
[対策] ○衛生管理の改善 ○野生動物侵入防止対策 ○発生鶏群の早期淘汰 ○畜舎消毒の徹底						

[鶏コクシジウム症]

発生管内	発生月	畜種	日齢	戸数	頭数	主な症状
中予	4 月	肉用鶏	65	2	200	肉様便
[対策] ○畜舎消毒の徹底 ○抗コクシジウム剤の投与						

韓国における口蹄疫の発生について



口蹄疫は感染力が強く、牛、豚、ヤギ、緬羊等の偶蹄類の口や蹄に水疱を形成し、発熱、流涎等の症状を示して生産性を著しく阻害する伝染病です。日本では平成 22 年に 10 年ぶりとなる発生が宮崎県で確認されました。この時は急速に感染が拡大したことから緊急ワクチン接種を実施し、約 30 万頭の家畜を殺処分してウイルスを封じ込めました。平成 23 年には清浄国に復帰し、それ以降は発生していませんが、周辺国では繰り返して発生しており、韓国では、令和 7 年 3 月に 1 年 10 か月ぶりに本病が発生し、牛及び豚で立て続けに確認されています。

(4/14 時点：牛 14 件、豚 5 件)

《本病の侵入防止対策》

○水際対策

空港や港での畜産物の検査や消毒等の国内への侵入防止対策を農林水産省動物検疫所により実施しています。

○農場への侵入・まん延防止対策

飼養衛生管理の点検・改善を繰り返し、侵入防止の徹底を図ってください。また、早期摘発のための観察を強化し、異状を認めた際には速やかに家畜保健衛生所に御連絡ください。

国内で馬インフルエンザが発生

令和 7 年 4 月 8 日に、国内では 17 年ぶりとなる馬インフルエンザ（別名：馬流行性感冒）が熊本県で発生し、次いで北海道でも発生しました。発生した馬飼養農場では、感染馬の隔離や、飼養馬の移動の自粛、ワクチン接種、施設の消毒等によるまん延防止対策を行っています。本病は A 型インフルエンザウイルスによる馬の感染症であり、飛沫により感染するため急速に伝播し、症状は、発熱、咳、水様性の鼻汁がみられます。馬の飼養者におかれましては、今一度、飼養衛生管理を徹底いただくとともに、疑わしい症状がみられましたら、管轄の家畜保健衛生所へ御連絡ください。



農研機構 HP 引用

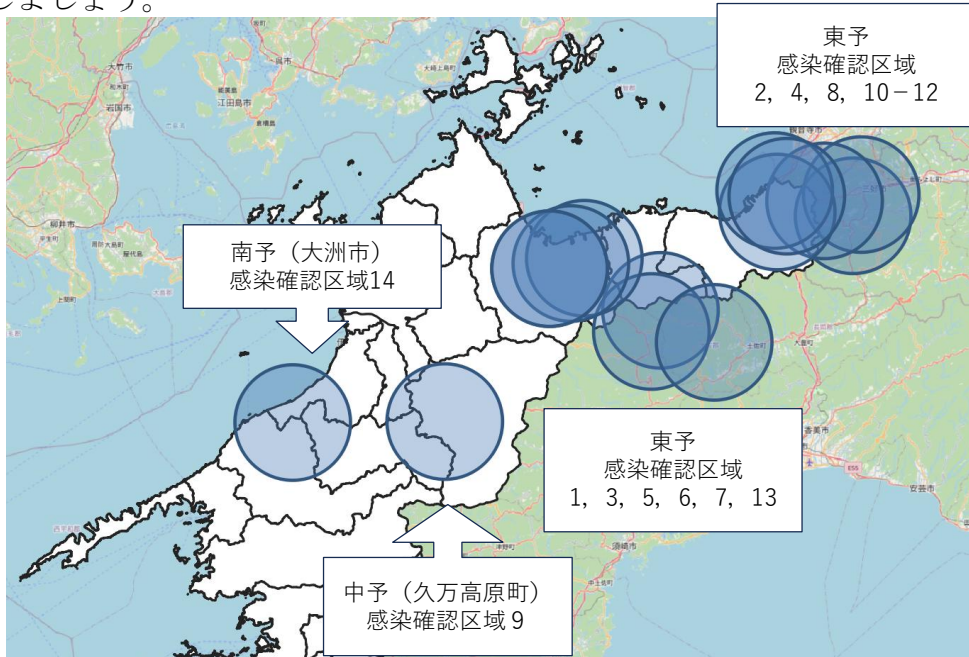
今回発生の原因ウイルスの情報

- ①熊本県及び北海道での流行ウイルスは、北米由来のウイルスと近縁（フロリダ亜系統クレード 1 の H3N8 亜型）。
- ②熊本県と北海道のウイルスは同じ。
- ③現在日本で使用されている馬インフルエンザのワクチンは、熊本県及び北海道の流行ウイルスに対して有効である。

野生イノシシの侵入防止対策について

国内の野生イノシシにおける豚熱感染状況は、令和 7 年 4 月 11 日に宮崎県で初めて確認されるなど、感染域が拡大しています。県内では令和 6 年 6 月 28 日に西条市で野生イノシシの豚熱感染が確認されて以来、西条市、久万高原町、四国中央市、大洲市で計 9 頭の感染個体が確認され（令和 7 年 6 月 2 日時点）、豚・イノシシ飼養施設へのウイルス侵入リスクが高まっています。また、アジア各国ではアフリカ豚熱も発生していることから、引き続き農場での衛生対策が重要です。

豚、イノシシ飼養者の皆様におかれましては、農場における野生イノシシ侵入防止対策を徹底しましょう。



(感染確認区域 1~14 令和 7 年 6 月 2 日時点)

【野生イノシシを農場へ侵入させないための対策】

○防護柵の点検

- ・破損等がないか再確認しましょう。

特に柵の下段が破損していないか確認してください。電気柵の場合は、鼻が当たる高さに線を通すと効果があります。学習能力の高いイノシシは、光・音・匂いを利用した対策は慣れが生じてしまい、効果は一時的なものになります。

- ・柵周囲に雑草が生えていないか確認しましょう。

雑草が生えていると、イノシシの隠れる場所が増え、農場に近づきやすくなります。また、柵の破損に気付くのが遅れてしまうため、定期的な草刈りが必須です。

○食物の適正処理

- ・農場周囲に、野生イノシシを誘引するようなエサや野菜、生ごみを放置しないようにしましょう。

春～夏は野生イノシシの個体数の増加シーズンとなり豚熱感染リスクも上昇します。これらの対策を今一度確認し、ウイルスから農場を守りましょう。

また、豚熱・アフリカ豚熱の拡大には野生イノシシだけでなく、ウイルスが付着した人や物の移動も関与すると言われていています。野生イノシシ対策に加えて、飼養衛生管理基準の遵守徹底により、衛生管理区域や畜舎内へのウイルスの侵入防止に万全を期すようお願いいたします。

【イノシシの生態】

- ・神経質で警戒心の強い動物。基本的に人間を避けて生活する。
- ・学習能力が高く、警戒心が低下すると、昼間に人里へ侵入する。
- ・嗅覚に優れ、鼻部のパワーが強く、成獣では 50 kg のものを持ち上げることができると言われている。
- ・食性は植物を中心とした雑食性である。
- ・縄張りを持たず、季節によって餌と生息場所を変える。

【一年間の行動】

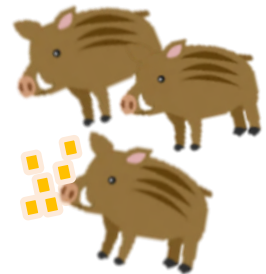
- ・繁殖は 1 回/年で、冬に発情・交尾期を迎え、5 月頃に出産する。
- ・交尾期のオスは行動範囲が広がる。
- ・1 回の分娩で 4～5 頭の子（ウリ坊）を出産する。
- ・ウリ坊は、半数近くが性成熟を迎える前に死亡するが、春～夏が最も野生イノシシの個体数が多いシーズンとなる。

豚熱経口ワクチン野外散布及び 捕獲イノシシの豚熱等検査の実施について

県では、野生イノシシにおける豚熱の感染拡大を防止するため、令和 5 年 2 月から令和 7 年 3 月までに 9,620 個の経口ワクチンを散布しました。今年度はさらに散布地域を拡大し、引き続き野生イノシシ対策を実施します。

【散布計画時期・散布場所・散布個数】

時期	前期散布：1 回目 6 月～7 月、2 回目 7 月～8 月 後期散布：1 回目 10 月～2 月、2 回目 11 月～3 月
散布場所	四国中央市、新居浜市、西条市、今治市、上島町、 松山市、久万高原町、大洲市、八幡浜市、西予市、 宇和島市、 <u>愛南町(後期から散布開始)</u>
散布個数	前期 2,880 個、後期 3,040 個



○経口ワクチンの安全性

- ・経口ワクチンを摂取したイノシシ肉を人が食べても、人体に影響はありません。
- ・イノシシと豚にのみ感染するウイルスを使用しており、人や他の動物が病気にかかることはありません。
- ・経口ワクチンの成分と濃度は、環境に悪影響を与えません。

○野生イノシシへの誘引

- ・ワクチンを埋設した上に圧ぺんとうモロコシや米ぬかなどを散布することで、野生イノシシが経口ワクチンを摂食しやすい工夫をしています。

【捕獲イノシシの豚熱検査等】

野生イノシシにおける豚熱の浸潤状況の把握及びアフリカ豚熱の侵入予察のため、一般社団法人愛媛県猟友会の協力のもと、年間 400 頭の捕獲イノシシで検査を引き続き実施します。

最新情報は県ホームページを御覧ください→→→→→→→→→→→



畜産研究センター・養鶏研究所の試験研究について

最近の畜産研究センター・養鶏研究所の試験研究課題をお知らせします。研究成果や内容にご関心がありましたら、畜産研究センター・養鶏研究所へお問い合わせください。

<完了した試験研究課題>

【酪農飼料班】

○サトイモ親芋の乳牛における嗜好性と消化性

食用に供されずほとんどが圃場にすき込まれるサトイモ親芋の飼料化を図るため、保存性を考慮してサイレージ化したサトイモの乳牛での嗜好性を調べるとともに、牛体内での消化率を測定して栄養的価値を評価しました。その結果、飼料乾物中 50%までのサトイモ配合で高い嗜好性を維持できること、消化性の高い炭水化物の豊富さにより高い栄養価（乾物中 TDN75.1%）を有することを明らかにしました。

○ロボット搾乳体系を想定した多回搾乳による乳生産向上効果の検証

ロボット搾乳体系を想定した多回搾乳による乳生産への影響について、泌乳最盛期牛を用いて検討した結果、搾乳回数を 2 回から 3 回に増やすと乳量は約 10% 増加し、その効果は粗飼料（牧草類）と濃厚飼料（穀類主体飼料）の分離給与よりも TMR（混合飼料）給与で大きくなることが判明しました。一方で多回搾乳では栄養不足による乳脂肪率の低下が起きやすく、十分な採食量確保への目配せが重要になります。

【肉牛班】

○脂肪酸カルシウム長期給与による消化管内発酵由来メタン削減飼料に関する調査

和牛肥育牛に対する脂肪酸カルシウム長期給与による増体・枝肉成績、生理状況やメタン排出量、食味調査等を調査検討しました。その結果、肥育後期の 4 ヶ月間の脂肪酸カルシウム 4% 添加により、エネルギー代謝に関する血液成分が変動し、飼料効率、食味性が改善されました。

【家禽研究室（養鶏研究所）】

○鶏飼料としてのスクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の安全性及び嗜好性について

水稻苗の食害が深刻であるスクミリンゴガイについて、高騰する鶏飼料原料としての可能性を検討するため、鶏への安全性及び嗜好性を調査検討しました。その結果、肉用交雑鶏については、異常が認められず体重増加が認められたことから安全性が確認され、採卵鶏においても嗜好性・生産性の低下は見られませんでした。



サトイモサイレージの調製



メタン削減試験における
肉牛飼養管理状況



捕獲後のスクミリンゴガイ

<現在取り組んでいる試験課題>**【酪農飼料班】****○乳牛行動情報指標化技術確立試験 (R6～R8)**

ICT（情報通信技術）でモニタリングされる反芻行動を乳牛の飼養管理指標として活用する技術確立を目指し、基準値の探索や適正な反芻行動に導く乳牛管理手法の検討に取り組んでいます。

○とうもろこし有機肥料利用技術確立試験 (R5～R7)

化成肥料の高騰やゲリラ豪雨などに対応した施肥技術を確立するため、化成肥料の代替えとしての堆肥ペレット主体の施肥体系、降水量増加に対する冠水時の影響等について調査検討しています。

【肉牛班】**○和牛肥育発育性向上技術確立試験 (R7～R9)**

あかね和牛など若齢肥育においては、重要な枝肉増加技術を確立するため、哺育・育成期、肥育前期の増体向上、給与栄養成分強化につながる飼養管理技術を検討しています。

【養豚班】**○銘柄豚収益向上技術開発試験 (R5～R7)**

銘柄豚生産における生産性向上のため、肉質を維持しながら、発育性の向上が見込まれるアミノ酸比率法を用いた飼料設計技術を検討しています。

【家禽研究室(養鶏研究所)】**○鶏低タンパク質飼料給与体系確立試験 (R6～R9)**

採卵鶏について、生産性を維持しながら飼料費低減を図るため、たんぱく質含量を抑えて価格を低減した配合飼料とアミノ酸製剤を組み合わせた飼料給与方法を調査検討しています。

○鶏卵鶏肉高付加価値創出試験 (R7～R9)

鶏卵、鶏肉の差別化、高付加価値化を図るため、鉄剤等を添加した飼料給与による鶏卵、鶏肉への鉄の移行等や特殊卵の可能性について検討しています。

電源立地地域対策交付金を活用した機器整備

令和6年度電源立地地域対策交付金を活用して以下の機器を整備しました。

整備機器	薬用保冷庫、オートクレーブ、マイクロ冷却遠心装置、ビーズ式細胞破碎装置、ゲル撮影装置、リアルタイムPCR、動物用臨床化学分析装置、フォークリフト、冷水高圧洗浄機、ステンレス作業台、無影灯
整備施設	南予家畜保健衛生所
目的	整備機器を活用した高病原性鳥インフルエンザ及び豚熱を含む家畜の伝染性疾病の迅速・正確な検査に基づく飼養衛生管理指導を行うことにより、発生の予防及びまん延を防止し、本県畜産農家の生産性向上を図りました。

がんばる愛媛の畜産

第 40 回四国連合乳牛共進会でグランドチャンピオン賞受賞！

令和 7 年 4 月 5 日に、四国 4 県の代表牛による乳牛品評会である「第 40 回四国連合乳牛共進会」が、香川県綾歌郡綾川町の香川県家畜市場で開催され、満開の桜のもと、四国各地から集まった優秀な乳牛が、月齢及び産歴の有無別に 12 部門で序列を競い合いました。

厳正なる審査の結果、大洲市の山本洋輔氏出品牛（テクニー デーツアー クズミ号：写真①）が栄えある経産牛のグランドチャンピオン賞（農林水産大臣賞）に輝きました。

また、経産牛のリザーブチャンピオン賞（中国四国農政局長賞）に西予市の入船篤志氏出品牛（ホワイトリバー ヒンペル クイーン クラツシヤブル号：写真②）、未經産牛のリザーブチャンピオン賞（中国四国農政局長賞）に西予市の上甲祐斗氏出品牛（ロングキヤニオン ドツク ミリー号：写真③）が受賞しました。

愛媛県からは合計 19 頭が出品され、各部の順位から点数付けした県別総合得点では優勝を飾るなど、酪農家の皆様の改良成果や飼養管理技術が発揮された素晴らしい結果となりました。

本年 10 月には、北海道勇払郡安平町で 10 年ぶりに全日本ホルスタイン共進会が開催されることとなっており、本県出品牛のさらなる活躍が期待されます。

①



経産牛グランドチャンピオン賞受賞牛（テクニー デーツアー クズミ号）

②



経産牛リザーブチャンピオン賞受賞牛
（ホワイトリバー ヒンペル クイーン クラツシヤブル号）

③



未經産牛リザーブチャンピオン賞受賞牛
（ロングキヤニオン ドツク ミリー号）

南予家畜保健衛生所、家畜病性鑑定所南予分室の連絡先について

令和7年4月1日から南予家畜保健衛生所が移転し、同所内に家畜病性鑑定所南予分室が新設されました。所在地及び電話番号について次のとおりお知らせします。

	所在地等
南予家畜保健衛生所	〒797-0013 西予市宇和町稻生 257 番地 TEL : 0894-62-0026 FAX : 0894-62-1120
家畜病性鑑定所南予分室	〒797-0013 西予市宇和町稻生 257 番地 TEL : 0894-62-2270 FAX : 0894-62-1120

“ご相談、お問い合わせは、こちらへ”

愛媛県畜産課

Tel (089) 912-2575 Fax (089) 912-2574

東予家畜保健衛生所

Tel (0897) 57-9122 Fax (0897) 57-9155

中予家畜保健衛生所

Tel (089) 990-1333 Fax (089) 955-1234

南予家畜保健衛生所

Tel (0894) 62-0026 Fax (0894) 62-1120

家畜病性鑑定所

Tel (089) 990-1341 Fax (089) 955-1234

家畜病性鑑定所南予分室

Tel (0894) 62-2270 Fax (0894) 62-1120

畜産研究センター

Tel (0894) 72-0064 Fax (0894) 72-0065

畜産研究センター養鶏研究所

Tel (0898) 66-5004 Fax (0898) 66-5093